

第2回 富田林市金剛地区再生指針策定協議会 会議録

日 時：平成28年9月2日（金） 午後3時～5時

場 所：金剛連絡所2階 大ホール

出席者：○協議会委員 18名

友田委員、中井委員、溝口委員、山田委員、吉村委員、増田委員、小野委員、
原山委員、寺田委員、岡本委員、藤本委員、中谷委員、市川委員、中西委員、
東委員、井筒委員、北野委員

三崎委員代理：藤原氏

○事務局 5名

まちづくり政策部 坂本次長

まちづくり推進課 仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、
坂口地域整備係長、羽田主査、

○コンサルタント 2名

株式会社市浦ハウジング&プランニング 小倉、西村

○傍聴人 3名

会議記録

（事務局：仲野）

お待たせいたしました。

ただいまから、第2回富田林市金剛地区再生指針策定協議会を始めさせていただきます。

皆様方には、何かとお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

私は、本日司会をさせていただきます、まちづくり推進課の仲野でございます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、議事に入る前に事務局からお知らせがございます。

本協議会は、本市の「会議の公開に関する指針」により公開することになっており、会議録作成のため録音と写真撮影をさせていただきますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

なお、会議録につきましては、発言者の氏名も公表して作成することについてもあわせてご了承願います。

本日は、大阪府の三崎委員がご欠席ということで、代理で藤原様にご出席していただいております

ので、どうぞよろしくお願ひいたします。

なお、本日は3名の傍聴を希望される方がお越しになっており、既に入室していただいておりますことをご報告させていただきます。

傍聴をされる方にお願ひいたします。本日の協議会資料と一緒に配布しております「会議の傍聴に係る遵守事項」を守り、議事の円滑な運営が行えますようご協力をお願ひいたします。

また、会場の都合上、17時を目途に会議を進めたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

ここで、本日の資料の確認をさせていただきます。

協議会の次第がA4で1枚。資料1、A4でホッチキス留めになったもの1つ。資料2、これもA4でホッチキス留めになったもの1冊。それで資料3がA4横でプリントしました1枚ものの資料が1つ。で、資料4、これがA3の1枚ものの資料。で、資料5、これもA3でホッチキス留めになったものになるんですけど、これを1冊。参考資料がA3で1枚もので1つ。で、参考資料2がこれもA3でホッチキス留めになったものが1冊。以上となりますが、過不足等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この後の議事進行は、設置要綱第5条第1項により、会長が行うこととなっておりますので、増田会長よろしくお願ひいたします。

(増田会長)

はい、皆さんこんにちは。もう9月になりましたけれども、前から丸2か月だいぶ経ちましたけど、第2回目を開催したいと思います。

今年の夏は、毎年暑くなっているかと思えますけども、2年は例外だったみたいですね。今年の夏は3年ぶりに平均気温がまた上がったという状態やったみたいですけど。

それではこれから始めたいと思えますけど、先ほどご案内がありましたように、なかなかいい施設なんですけど、こういう施設を市役所の外部でやると、5時には撤退しないかんということになってますので、今日は時間厳守で終わることを目標に進めたいと思えますのでよろしくお願ひします。

今日の議題ですけども、議事のところにございますように、「これまでのおさらいと今後の流れ」それと「金剛地区活性化に向けた取り組みの検討について」。この2番がメインの意見交換です。で、3番目は「次回協議会について」と。こんな段取りで進めていきたいと思えますので。

それではまず2か月前に協議会が行われ、その間、皆さんで意見交換会もしておりますので、「これまでのおさらいと今後の流れ」について、まず前のを思い出すのも兼ねて、ご説明いただいてから前に進めて参りたいと思えます。よろしくお願ひしたいと思えます。

(市浦H&P：小倉)

それでは、説明させていただきます。市浦ハウジング&プランニングの小倉と申します。

お手元の資料1、これが前回7月1日の議事の概要ということで、少しおさらいしたいんですが。

めくっていただきまして2ページの下の方からですね、本題に関するところが出てきます。

一番下の行からですね、金剛地区は都心へのアクセスが良いというのが、というようなところからですね、それだけで都心へのつながりっていうのだけで、利便性が高いと言えるのかというようなことから、地区の魅力とかですね、そのあたりのライフスタイルも変化してきているという中で、というような話。それと公園の話もけっこう出ておりました。公園はあるだけで良いのかと。既存の公園の問題点とか寺池公園の話題等が3ページのところに続いています。3ページの下の方ですね、金剛地区を高齢者や若者が一緒に活動できるようなまちに変えたいというようなところで、大学との連携ですとか、そういった若い人との交流といったところに意見が出ておられます。その少し下のところに戸建て住宅では若者等が家を建てやすくするため、ということで、若い人が入ってきてもらうための戸建て住宅の空き家等も多いけれども、そのあたりの住宅の問題。

それと3ページから4ページの前半にかけてはですね、子育て世帯の方へのサービスと、あるいは環境の充実というようなあたりで、高齢者ばかりに着目やほりされるところばかりではございませぬけれど、子育て世代の方への環境づくりも大事であるという話でございませぬ。その次にURさんの方で地域医療福祉拠点化ということで、金剛団地を選んでいただいて取り組まれているということですので、そことタイアップして進めていくことも重要だというご意見もいただきました。

それとその次にですね、住民が実現したい暮らしを最終目標としながら、ということで、住民参加で目標を描いてやっていくべきだというような意見もございました。その後またですね、子育て世帯の方についての呼び込むためにはというようなことに関連する意見が4ページの終わりから5ページの初めに書かれてまして。5ページの上から2つ目の黒丸のところの3つ目くらいのところで、外に出ていくというのは世帯分離だから仕方ない。逆に入ってきて来てくれている方もおられるので、そのあたりのどういうところに魅力を感じているのか、そういうことを調べてはどうかというようなご意見もございました。

その後はですね、金剛地区には連合町会がないというような話題がございましたが、全体でまとまるのは難しい。小学校区単位で考えてやろうかというようなご意見もございました。それと1つ飛んでですね、地域の人と話をしていると具体的に計画が進んでいないことに対して苛立ちをっていうような意見も聞かれるよというようなお話もございました。それに関連してその下ですね、ここ2、3年の短期での実現を目指す展開を掲げる必要があるのではないかというようなご意見もございました。

6ページの方はですね、この協議会が終わった後にいただいたご意見、事務局の方にいただいたご意見がございませぬ。で、最初の方はですね、協議会の進め方で、まずその取り組みというのはですね、どういう課題に対応するために、こういう取り組みが必要かというふうに整理した方がいいんじゃないかという話があります。それと、3つ目の黒丸のところですね、目の前の課題解決のための短期的な取り組みだけで整理すると、将来像がしぼんでしまうということで、中・長期的な夢を見ていくのも重要だということもございました。あと少し飛ばしまして、②将来像実現のために、というところですね、事例をいろいろ出して欲しいとかですね。あるいはこういったことの取り組みしてはどうか、というようなご意見を数々いただいております。このあたりは、その後の意見交換会なり、あるいは今日の資料の中にも反映しているということでございませぬ。

続きまして資料2の方です。これがですね、7月31日に第2回意見交換会がございました。で、

この意見交換会なんですけれども、内容としてはですね、お手元の資料のA3のですね、参考資料1と参考資料2というのでも少しご覧ください。この2つの資料をですね、事前に意見交換会のメンバーの皆様にはお配りしてですね、この参考資料1というのは、これまでの意見を基に今までの意見を基にすると、例えばこういったような再生指針の全体イメージですねということで掲げています。

で、目指す将来像としては「いきいき安全安心」「多様な住まい」「豊かで多機能」「住民が育てる」という4つ挙げてまして、それぞれの中に将来像実現のための取り組みということでですね、「いきいき安全安心」のところについては、高齢者の話。それと2番目がですね、防災とか防犯の話。3番、4番が子育て、あるいは子どもの教育環境とかそういったようなお話です。

その次の「多様な住まい」というところでですね、1番目が戸建て住宅。今の空き家の改修とかですね。あるいは新築の戸建て住宅を充実しやすくする。2番目が老朽化した集合住宅を改修とかですね。あるいは3番目は、今第三住宅さんの方でも取り組まれているということですが、集合住宅の建て替えとかというようなことも含めて、多様な住宅の供給を目指す。そういった話です。

で、3つ目の「豊かで多機能」というところにいくつかのことが入ってまして、1つ目はですね、その地域でのサービスを向上するためということで、コミュニティビジネスに取り組むというようなこと。それと、その建物の更新とかですね、あるいは空き施設というようなところがあるので、そういうところで生活サービス機能を導入してはどうか。3点目がですね、用途地域とかの法規制の話。で、4点目がですね、道路とか公園とか、そういったパブリックスペースの魅力づくり。で、5点目が周辺との交流等、あるいは先ほど意見のあった学生との交流とか、そういうことも含めての魅力づくり。こういったことが豊かで多機能ということだと。

後ですね、「住民が育てる」のところでは、こういった会議を基にですね、この金剛地区の再生をですね、企画実行するような、そういう協議会なりの組織をつくっていったらどうかという話。それとそういったまちづくりの活動ができる拠点をつくっていくという話。そういったような構成をこれはたたきとして出しております。

でですね、この中に丸1番から53番までですね、細かい字で書いてることがですね、これがそれぞれの項目の中での取り組みの例です。あくまでも例なんですけれども。これをですね、今世の中でやられている事例っていうのを次の参考資料2のところでは挙げています。その中で丸1番から53番までですね、金剛地区でやられている事例が青の色を塗っているところです。で、その他、白のところは世の中の事例で、こういうものがいろいろありますよと。といったような資料をお配りしてですね、前回の意見交換会では、この中で、今後この丸1から53の中で金剛地区で取り組んではどうかということ、重要だと思うことを3つ選んでくださいということをお願いしました。で、31日のその場ではそれを発表していただいて、なぜ重要なのかというようなことから意見交換をしたという次第です。

様々な意見が出たんですけれども、資料2の方に戻ってきていただきまして、こういったところに票が多かったかというのを、この記録の中にも書いております。後でまとめた表で、次の議題のところでご説明しますが、将来像1の「いきいき安全安心」、これに対する票が多かったですね。1番多かったのは、①買い物サービスの充実で7票です。その他ですね、ざっと見ていただいたら、

票が入っていたところだけ抜き書きしています。高齢者系、あとは交通のサービスとかですね、健康とそのあたりが多かった。2番目にまちの安全というようなこと、これも4票ありました。で、子どもの育つ環境、これも4票プラス1票あって、このあたりも票として多かったあたりでございます。

次のページに行きまして、4ページですね、将来像に「多様な住まい」。ここはですね、先ほど言いましたように、第三団地さんが建て替えの検討を有志で進められているということで、そのあたりは票ありましたが、その他はですね、やはりちょっとこのあたりは専門家じゃないと難しいなということで、票が少なかったところでございます。

次に将来像の3番「豊かで多機能」。この中ではですね、実は我々が想定してなかったものがですね、この整理の中ではどこにも当てはまりにくいというか、重複しているというようなことで、商業施設の再整備ですね。ピュア金剛跡とか銀座商店街の跡とか、こういったところの意見が多数ございました。その他ですね、その空き家の活用とかですね、パブリックスペースも一定の意見がありました。それと5ページの方に行きまして、ここで書いていなかったものとしまして、例えばプールの復活とかですね、図書館の話はあと出てきますけども、そういったところに対する意見も多くありました。あと「住民が育てる」というところと言うと、高齢者などの多世代の交流の場づくりとかですね、そういったところに対する票が多かったと、というようなことでございます。

この意見交換会では、6ページのところの最後リーディングプロジェクトの取り組み方等についてで、今言ったような意見の集約をした上で、そこで出た意見としてですね、具体的に誰が取り組むんだというところに議論が発展して、これからそれを考えていかなければいけないというのが課題だということで、この回は終わっております。というのが7月31日のご報告です。

で、こういった流れを受けまして、本日の協議会でご議論していただきたい内容といたしまして、資料3をご覧ください。5月22日に第1回の意見交換会と、7月1日、7月31日のご説明を今いたしましたけれども、基本的な意見はけっこう出てきたというところで。本日についてはですね、取り組みとか課題と、それを踏まえた指針のあり方ということで、意見交換会で票を入れていただいたので、重視された内容、それについて金剛地区で現状どうなんだという話と、それと金剛地区以外のところで、どういうところに取り組みされているのかというのを、先ほどの参考資料2以上に詳しく整理してきた資料がございます。それを基にですね、そのあたりご検討いただきまして、それを踏まえてですね、再生指針に記載していく内容についてもですね、先ほどご説明した参考資料1なんかでこういうところ足りないとか、そういうところも含めてご議論いただく協議会になればなというふうに思っております。それ以降につきましては、第3回目以降、後ほど3番目の議論のところでご説明したいと思っております。説明は以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。

資料1に基づいて前回の協議会の振り返りというのと、資料2に基づいて意見交換会で主に1から53ある取り組みの中で、具体的に皆さん方の意見交換の集中した内容。で、それを受けて資料3で、今日何をみんなで議論するんですかという話で取り組み課題とそれを踏まえた指針のあり方というのを今日議論したいと。意見交換会で重視された内容について、金剛地区の現状を踏まえ、

今後の取り組みや課題などについて、意見交換すると。こんな話が今説明されましたけれども、よろしいでしょうかね。

はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

僕、意見交換会に出て、この前の協議会にも出てるんですけど、意見交換会の時に、1番最初に議論が始まる前に、僕も直前に知ってびっくりしたんですけども、市の方が総合計画とか、公共施設等の管理計画ですか、といものを検討することがはっきりしていると。で、アンケートまで取り始めている件があって、僕もそれ初めて知ったんですけども。その中身というのが、今人口減少高齢化ということがあって、公共施設については、いったら非常に維持が難しいだろうという前提でね、人口が4分の1くらい減っていくという前提で議論がされて、統廃合を含めてやるんだという、考えていかないかんだという議論がされていることを初めて知りましてね。で、その中で、僕も若干意見言いましたし他の方も言われたんですけども、なんか方向が全然違う方向のイメージが出ましたんでね、まあ言ったら全体縮小していかなあかんと、公共施設で縮小していかなあかんという方向で何か検討すごくされて、来年の1月言うたかな、そういう方向出していかなあかんみたいな議論があるようで、僕らが今金剛の再生でどうやって人来てもらおうとか、若い人にどうやっていろいろな魅力を知ってもらおうとか、なんか全然違う方向の話が出されてるんじゃないかなということが話題になりましてね、それについて僕は混乱したんです。どういう方向でいったい考えたらいいんだ。今そういうことを市が検討されているということが、出てきてますので、やっぱりもうちょっと、こういうことも検討しているああいうことも検討しているということをもっと出していただかないと、ちょっとね混乱に混乱が起こってくるんじゃないかなと。

例えば、公共施設についてはね、青少年スポーツセンターかな。あれをどうやって活かしたらどうか、という意見が出たりするんですけども、プールについてもいろいろ意見出たりするんですけども、それが根本的に無くしていくんだという方向だとか、公共施設、学校なんかについても、今後維持が大変だから無くした方がいいんだという方向がもし出てくるとすれば、前提条件が崩れていくことになりますから、そこらへんが非常に僕として非常に混乱した状況になりましたんでね、そこらへんやっぱり市の方が、はっきりと大事なものは何か、住民は何を言ってるかというのをはっきり掴んでいただいて、その中で良い方向にやっぱり持って行っていただきたいな、ある意味発言もしていただきたいなと感じたのが第1点です。

で、もう1点意見交換会で特徴的だったのが、1番最初に冒頭に言っていたのが、URの計画が分からないから考えられないんだという意見が出まして、やっぱり僕らが地域のこと考えるときに、やっぱり大きな影響力持っているのは、金剛であればURですし、あとバスの問題が出た時も、コミュニティバスみたいななんがもっと便利なん出ないのか言うたら、バス会社のいろいろな関係があるんだという話なったりして、そういう点ではやっぱりURの方とか、南海の方も来られているわけですけど、地域にとっては非常に大きな影響力持っておられるのは、明らかなのでそこらへんもいろいろ一緒になって考えていくという方向で発言とかね、一緒にこれ考えていくというのをしてもらいたいなと非常に感じたところです。

全体として、やっぱり最終的に僕はいろんな調整とかありますから、自治体、地方公共団体とい

うことでは、市の方がね、やっぱりもっとうちはっきり方向性出すなり、意見出すなりということが必要じゃないかなということを感じましたので、金剛の推進についての体制だとか、体制責任ですとかね、そういう議論になってくるんかと思うんですけども、僕は、市は重要な役割を果たすと認識してもらいたいなと非常に思っています。

前回、富田林市も非常によく頑張っていたという感想も出てますのでね、今後もやっぱり大きな役割を果たしていくと思っていますので、ぜひやっていただきたいなと。蛇足になるかもしれませんが、それをいうのはやっぱり意見交換の時に、いろいろ意見出してもガス抜きで終わるん違うんかという意見がやっぱりよく聞こえますのでね、やっぱりそういう点では市の方が責任を持っていろいろ考えていっていただきたいなと思っているということです。

(増田会長)

はい、わかりましたけど、これ進め方に対してのご提案ということで、特に市から何かございませうか。私自身は基本的には、ここで議論して再生指針を皆さん方でつくると。これは市も責任を参画してつくるということですから、今ここで議論されていることを、極力ここだけの市内部の切り取った中の議論ではなくて、市の方々にはそれを全市の中での施策展開の中でちゃんと反映していってもらいたいというふうなことをお願いして、前に進めたいなと思うんですけどね。よろしいでしょうかね。だから、ここはここの議論、あちらはあちらの議論というふうに切り分けるのではなくて、ここに出された意見、あるいはここでつくった再生指針は全市的の中で受け止めていただいて、全市の計画の中に反映すべき点は大いに反映してもらいたいというようなことを、少しそういうことを前提に指針づくりをしていると、そんな認識で前に進めさせてもらおうということによろしいでしょうかね。

(吉村委員)

はい、けっこうです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。そしたらここで議論したことは、市が何してくれるというよりは、我々としてあるいは市も含めてですけど、ここで何が大事で、何を皆で取り組みたいんかとか、取り組まなあかんのかということを積極的に意見交換していきましょう。で、そういうプランとして位置づけていくというような形で、オーソライズしていければと思いますのでよろしいでしょうかね。

(吉村委員)

はい。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。そしたら今日の本チャンの部分に入りたいと思います。金剛地区活性化に向けた取り組みの検討についてご説明いただいて、今日はここはかなり意見交換したいと

ころですので、ご報告いただければ。

(市浦H&P：小倉)

はい、それでは資料4、資料5を続けて説明させていただきます。

資料4これはどういうものかと言いますと、タイトル下にありますけども、これから「いつ、誰が、どこで、どうやって、取り組むか」を考える最初のステップ来たかなというところですので、意見交換会で出た意見を基にですね、「当面の検討の進め方」のたたき台というかですね、簡単なことをまとめた次第でございます。で、左側のところにですね、先ほどご説明いたしました4つの柱、取り組み事項。その中で、先ほど意見が複数票入っていたものだけを書き出しています。こういうところに対して、先ほど口頭でご説明したように考えていきたいと思えます。

まず1つ目、いきいき安全安心、高齢者、防犯、防災、子育てというところなんですけれども、これについて先ほど言いましたように1番意見多かったということで、右側の方に書いていますように進め方のたたき台としてはですね、積極的な意見があったので、地域で何かワーキンググループのようなものをつくってですね、取り組みを進められるような項目なんじゃないかというふうに考えていました。具体的にはですね、住民、地域団体、事業者等による検討グループを組成するというので、将来的にはまちづくり会議の部会みたいなものに育つようなグループをつくってはどうかと。進め方のイメージとしては、現状を把握し、取り組みテーマを絞り込んで、具体的な取り組み内容を持つとか。

2点目の多様な住まいのところについてですけど、これ先ほどもご紹介しましたように、ちょっと専門的で分からないこと、あるいは自分たちの意見を言ってもどうしようもないところがあるんじゃないか、というようなご意見もございました。ということで例えばこのあたりですね、空き家の問題等につきましては、市あるいは専門家で調査、研究すると。あとですね、集合住宅の話につきまして、URさん問題もあると思えますけれども、金剛第3団地では既に住民の有志さんで検討を進めているというふうに聞いております。このあたりはですね、地域全体の取り組みとしては、何かまち全体に関わるところがあったら参加というところで、今はちょっと置いてというふうな感じになっております。

その次の豊かで多機能のうちの1つ目のコミュニティビジネスについては他のテーマと連動するような話ですので、それの中で取り組んではどうかと思えます。それとですね、その次の空き施設の活用とかですね、用途地域、パブリックスペース、新たな魅力づくり等々の問題、及び次の住民が育てるの2番目のまちづくり活動の拠点、このあたりにつきましても、意見いろいろ出ていましたので、ワーキンググループをつくって取り組んでいきたいとこかなということで書いております。で、住民が育てるの1番のところ、まちづくり会議につきましては、そういった各ワーキングを総括するような、まちづくり会議を設立するというような方向で進んだらどうかということ。これあくまでたたき台でございます。

で、この進め方についてもご意見いただきたいんですが、そういったことで、進めるとした場合に、今言いました各項目で、金剛地区で現在どういうふうになっていてですね、あるいはその他の地域でどういうことされているのかというようなことを、資料5の方でまとめていっております。

この資料の内容ですね、特に事業の原資とかということで、事業に関するお金の話とかですね、

このあたりでですねホームページ等で調べられる内容だけで書いておりますので、完全に正確なものではないかもしれないということだけ、ご了解いただきたいと思います。

まず、1番目いきいき安全安心の買い物サービスの充実ということです。最初にタイプと書いてあります。買い物サービスの充実の取り組みとして、3つに分けられまして、まず1つは買い物の場をつくるということ。2つ目は家まで商品を届けるということ。3つ目はですね、家から出かけやすくする、交通ですね。こういう分類ができると思います。この表の中でですね、青字で書いている部分が金剛地区で現在行われているものでございます。1つ目のところで、場をつくるというところで見ますと、大阪いずみ生協さんによるURさんの団地内での移動販売の実施というのがですね、9月から施行されるというふうに聞いております。

ということで、この表の右の方の見方なんですけれども、主体は誰ですかということで、自治会、NPO、民間企業と書いていますけれども、これはもう民間企業さんの取り組みですね。で、頻度については、週1回程度というふうに予定されていると聞いております。そのあと対象エリアとしましては、自治会レベル、地域レベル、この地域レベルがほしい金剛地区全体くらいのサイズというふうに、ほしいの想定で書いております。広域っていうのはもっと広く、富田林全体とかあるいは南大阪全体とかそういう対象でやっているということです。ですから、このいずみ生協さんの分は、これも別に他所から来た人も買い物してもいいんですけども、金剛地区全体くらいの想定かなというところなんです。活動拠点というのが、拠点型、どっかの拠点でやるっていうのと訪問型、その人の家に行ってやるとか、どっか行って。その他もありますけれども、この大阪いずみ生協さんの場合は、URさんの団地の中で5か所くらいでやられるということです。ですから、拠点型になると思います。で、事業の原資のところは民間事業ということで。今言いました5か所というのは、下の地図の中で、赤の濃い方の丸で書いてある、ちょっと分かりにくいんですけど、ピンク色は今あるお店ですね、この地域に。で、濃い赤5つあると思いますけれども、ここで9月から施行で、毎週土曜日、

(事務局：坂口)

土曜日。

(市浦H&P：小倉)

土曜日にされるということです。補足あったらまたお願いします。といったような形でですね、この表自体書いていまして、その次のこれは白ですから群馬県の事例ですけども、同じような場をつくるというので、朝市を自治会等でやっているような事例がありました。その次に商品を届けるということで言いますと、金剛地区では社会福祉協議会が配食サービスをされています。次に銀座商店街のすし祥さんですね、宅配弁当をされているということです。で、その他、世の中の事例では、商店街でそういった宅配をやっているという事例もあるということです。

次に出かけやすくするということで言うと、イオン金剛東店では、無料送迎バスを運行されているということです。で、その次の川西の事例では、住民ボランティアでですね、普通の車でですね、スーパーまでの送迎バスの運行をしているとか、というような事例がございます。で、こういったところを総合して、右の方に四角で書いてあります、金剛地区の現状ということでですね、ちょうどこの9月から、先ほどありました移動販売というのも始まりますということで、今よりもだいぶ便

利になると思うんですけども。やはりですね、その左下の地図を見ていただけたら、今のお店とあるいは移動販売拠点からですね、半径300メートル、高齢者等でもぎりぎり歩ける、歩けないとあって、このあたりは基準はないんですけども、よく300メートルっていうのは使われます。300メートルの円を描くと、まあまあどこも入るんですが、ただ300メートルで今のお店にも、あるいは移動販売拠点にも行けないところもまだこの地区ではございます。あとやはりこういう議論する時に金剛でよく言われるのは、その300メートルといってもこの坂の多いところで300メートルでは他所とは違うということとはよく言われます。ということで、今現状でよくなってきているんですけど、まだまだ必要なかどうかというようなこと。それと配食サービスと宅配、これは当たり前ですけども数には限りがございます。そういうことで今後の取り組みについての例示ということで、1つ目、今以上にですね、多くのニーズへの対応というのを考えていかなきゃいけないんだろうかどうかというのが、議論の一つのポイントだと思います。

で、その下にカッコ書きで書いています、この資料以降もそうなんですけど、このカッコ書きの中で書いているのは、去年からいろいろなところで意見を聞いたり、あるいは意見交換会で出てきた意見、それらに関連するような意見を例示しておりますので、これは参考までに見ていただければと思います。それとその下にもう1つ丸で書いているのは、交通機関の話ですね。後でも出てきますけれども、その交通の問題から取り組む。これをすべきなのかどうなのかというようなこと。その他にもあると思いますけれども、こういった形で各シートでですね、現状と取り組みしている例示ということで書いております。

めくっていただきまして2ページ。丸2と書いていますけれども、これは先ほどの丸番号、1から53にて、丸3に当たりますので、すみません修正願います。丸3高齢者の見守り活動ということで、タイプとして地域で見守り活動をするということと、それと安否確認とか緊急通報のサービスとか多くはその2つがあります。地域での見守り活動ということで言いますと、東京都都営亀戸住宅の事例では、自治会の方ですね、ハザードマップとかつくってやっているという形になります。で、その下のはボランティア協力員という形でやっているのがあります。で、その下の安否確認等サービスということで言うと、既にこの地域で4つ掲げておりますけれども、民生委員さんによる安否確認。それと今日も寺田さん来ていただいておりますけれども、きんきうえぶさんで携帯電話を使った安否確認。それとURさんでも安否確認をされているということです。それとあと、市の方では消防本部等と連携した緊急通報システム。こういったものが取り揃えられています。ということで下の四角には、金剛地区ではけっこう複数の提供されたサービスがあるのかなということで、希望したら安否確認はできます。で、今後の取り組みについてということで、希望者以外はどうかという話でもありますね。あるいはちょっと視点を変えて、見守りというよりも高齢者等の交流とかですね、外出の機会を増やすとか、そういうような視点も必要なんじゃないのかというこのあたり、意見交換でも意見出ておりましたので書いております。

この意見交換会で意見の欄の二重丸ありますけれども、これはこの前の意見交換会の時に、先ほど説明しませんでしたけども、そしたらその取り組みの中で自分ができることは、何ですかというのを書いていただいています。で、この二重丸ついているやつは、重要だし、私もやりますよということで意見いただいております。そういうふうにご覧いただければと思います。

次の3ページに行きます。で、3ページにつきましては、公共交通の改善とか新たな移動サービ

スの話。で、このあたりにつきましてはですね、まあ金剛地区、現在下のようにバスルートございます。で、世の中では取り組みの例としては、交通機関を利用しやすくするというのと、新たな移動手段をつくるという2つがあります。で、1つ目の方、交通機関を利用しやすくということについてはですね、停留所以外でも乗降できるシステムというのをやられているところもありますし、行政がバスとか電車料金の助成とか、これも堺市の方であります。で、新たな移動手段のところでは、先ほど買い物の送迎のところでも1つ出しましたけれども、その他、人力式のタクシー、ベロタクシーみたいなんをやっておられるところとか、あるいは地域団体でこれ先ほどのと同じようなやつですね、送迎サービスをやっておられるところもございます。で、あと3ページのところそういうことで、結構まだバス停から遠いようなエリアも多いと。バスルートはどうしても主要な道路だけですね。で、このあたりについてはサービスの充実が必要かということで、意見いくつか出ておりましたので書いております。この中で先ほどもありましたコミュニティバスについてですが、前回意見交換会の時にご説明、市の方からいただいておりますけど、なぜきめ細やかなコミュニティバスの運行ができないのかということについて、実際に全市域でやっていて利用者が少なかったということ。それと近鉄富田林駅、南海金剛駅間の東西交通の実証実験結果についても、利用者が少なく採算が合わなかったと。で、市内には、路線バスの運行事業者がいて、その運行ルートに支障がないようにするのが非常に困難だということ。で、レインボーバスは公共施設の循環バスとして運行しているというのが現状ですというようなことを前回もご説明いただいたと思います。

で、次の4ページ行きます。ここはまちの安全を守る仕組みということで、防災の方についてですけれども。これは仕組みをつくるということ、その防災のツールをつくるというようなことで、仕組みの方で言いますと、高辺地域連携ネットさんではですね、複数の町会が集まった防災・避難訓練の実施等を既にされていると。その他のところではですね、自主防災組織があるエリアではですね、自主防災組織での防災訓練等を実施されているということで、既に5つの町会で防災会を設立していると聞いております。右側の備考欄にもあります。その他ですね、運動会式の防災訓練みたいなことをやったりとかですね、あるいはツールをつくるということで言いますと、地域住民で防災マップづくりとかですね。そういったことをやっていくような事例になっております。で、実際自主防災会とかが無いようなところもあるということですので、そういったところをつくっていったり、あるいはそういった町会・自治会等の連携した防災活動が必要になってくるということです。

次に5ページにちょっと同じような話ですけれども、今度は防犯の活動です。これも高辺地域連携ネットさんではですね、子どもの安全・安心ということ、それとパトロールそういったことに取り組みられています。あるいは、金剛すこやかネットですね、地域ではすこネットと呼ばれているそうですけれども、それと葛中すこネット、それぞれの地域団体による子どもの安全・安心見守り活動ということで取り組まれております。その他、防犯パトロール、住民みんなで地域を練り歩くとかもございます。で、あとですね、防犯カメラ、防犯灯の設置ということで言いますと、防犯灯はですね、すでに金剛地区の中でも20の町会・自治会等で防犯灯維持管理団体が設立されているということです。防犯カメラは少ないということです。で、このあたりについてもその下のまとめも同じことになるかと思えます。

6ページの方にいきます。次にですね、子どもがまちで学び育つ環境、その子どもの学習とか学

びの環境というようなところで、これにつきましては、学習できる居場所をつくるというようにことと、それと学びとか遊び、まあ個性的ないろいろ機会をつくっていきましょうということ。学習できる場所というようにことと言いますと、この地域では各小学校で地域ボランティアによる放課後の子ども教室の運営というのがされています。その他ですね、九州の方、宗像市ではですね、大学生が勉強を教える寺子屋みたいなのをやられているような事例もございます。次のところにつきましては、ふらっとスペース金剛さんの方で、地域団体による野外活動とか体験学習等の開催をされているということです。それとすこネットさんの方で、地域団体・保護者等による料理教室やスポーツフェア等、こういったことをこの地域ではされております。その他、他の地区ではですね、子どもの公園での遊びのイベントですとか、大学生とか大学講師等による学習支援会とか、あるいは商店街などで子どもの職業体験するようなこととか、あるいは地域団体で空き店舗で料理教室をするとか、いろいろそういった取り組みも見られるということです。で、学習機会の創設ということでも、この地区でもされているということですから、さらに充実させていくということについても意見結構このとおりにございました。

次の7ページにいきまして、先ほどは教育の話ですけども今度はまあ子育てできる環境ですね。その親御さんも含めての環境ということです。これにつきましては、ご覧の通り、この地域でもかなり取り込まれているので、青の部分が多くなっています。子育ての手助けということと、あずみなさんがされている子育て支援とか、ふらっとスペース金剛さんがされている一時保育ですとか、あるいはファミリーサポートセンター事業として行政の方でやられているような事業があります。その他ですね、地域にいる保育士とか有資格の方で保育室を運営するよう取り組みもございます。その次子どもの安全を守るということ。これ先ほどの安全・安心の話の再掲となっております。それと、地域で登校時の見守りとかですね、町会とかでされているようなところもございます。あるいはふらっとスペース金剛さんで親子の居場所をつくるということでこういう親子の居場所づくりに取り組まれておられたり、あとですね、特にお母さんとかがですね、子育て期間終わって今から働き始めようとか、あるいは自分の趣味とかそういったことに、次のステップにいこうというようなところでそういったようなことを支援するよう活動をふらっとスペース金剛さんでされているということになります。で、このあたりもですね、非常に多種多様にされているので、例えば今後の取り組みについての例示というようにこと、非常に環境が整っているまちですよということ、若い世代に定住促進を目指してですね、なんかアピールするようなことができたらいいなという話となっております。

次に8ページのところで、豊かで多機能の部分からですね、パブリックスペースの魅力づくりについての意見が結構多かったですので、それについての取り組みでございます。パブリックスペース、公園等の維持管理というようにこと、いいますと公園愛護会さんがですね、その下の公園愛護会さんで清掃されている公園を黒丸打ってますけれども、7団体が現在活動されていますが、備考の欄に書いています通り、高齢化により担い手不足という課題もあるようです。次に新たな魅力づくりということで、金剛バルとかイルミネーションイベントをこれ委員会をつくってされているということ。それと盆踊りとかですね。あるいは自治会による、これは金剛団地自治会さんところで運動会を開催されている。同じく金剛団地自治会さんでさくらまつり。それとどんどですね。などをされているということです。で、そのあたりを次の絵でもプロットしております。その他ですね、

世の中例えば、芸術家に地域住民が加わったアートイベントとかですね、あるいは地域の団体で公園の管理とか運営して、みどりの学校みたいなところまでやっているような事例ですとか、あるいは公園に施設を誘致するということになる、今この富山の還水公園なんかでは非常にきれいなスターバックスありますけど、そういったところもございます。このあたりにつきましては、現状そういうことで魅力創出とかやっていますけれども、あと公園愛護会の担い手不足というようなこともあります。ということで、これについてもですね、いろいろこうしたらどうか、というような意見が多種多様に出ておりますので、そういったところを議論していったらどうかと思います。

次の9ページ目です。これですね、ちょっと頭に目指す将来像のタイトルが忘れていました。「住民が育てる」のセクションですねこれは。主に住民が育てるのセクションのところ、交流の場づくりとか地域の活動情報等の拠点ということで、これはですねタイプとしては、誰もが立ち寄れる常設の場っていうのと、人が集う機会ですねそういうイベント等。それと地域の情報拠点をつくるという3つあります。で、誰もが立ち寄れることができる場ということで言うと、千里ニュータウンの方にありますひがしまちの街角広場さん。これはいつでも人が立ち寄れるように、住民ボランティアでされていると。次の川西市の25 cafe (ニコカフェ) というんですけれども、これは自治会さんで取り組んで、お店の空いているスペースとかですね、ケーキ屋さんのこのスペースちょっと空いているとか、そういうところ立候補していただいたところにですね、フリースペースとして、使い方はみんなでワークショップを考えるんですね。というような事例もございます。それとですね、その次が意見交換会の時にですね、居酒屋をつくりたいとか、という意見もありましたので、自分たちでやりたいというような意見もございました。探してきたのは、高知県の津野町っていうこれすごい山の中なんですけれども、小学校の空き教室やったかな、廃校になったところに、居酒屋とかコンビニとかつくって、地域の自治会等で、運営されている事例がございます。その次が、泉南市でNPOさんで常時開設の交流拠点をつくっていると、まあこれは行政の委託ですね。あと、人が集う機会づくりということで言うと、これは金剛でもこの通りやられてまして、福祉委員会さんのいきいきサロン、子育てサロンは、月1回程度ですかね、やられているということです。あと、敬老会。金剛団地自治会さんの方でやられている。これは、年に1回と。で、寺池台2丁目ふれあい会さんの方ではですね、趣味活動等を通した交流活動ということで、ヨガとかパソコンとか、ちぎり絵とかされているそうです。で、地域の情報拠点をつくるということで、これは横浜市かな、港南の方で区民活動支援センターとよろず相談所等でコミュニティ施設の運営を行っている。で、これもですね、意見がですね、右下に書いてあるようになり出てきましたので、説明は割愛しますけれども、見ていただければと思います。

以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございました。今日メインの議題と言っていたのが資料4ですね。前回意見交換会でかなり積極的に、意見交換出されたやつを3つのまとまりとして、ということで1つ目のまとまりが「いきいき安全・安心」という中で、高齢者等のいきいき暮らしを多様な方法で支えていく。まちの安全を守る仕組みをつくる。それと子どもがまちで学び育つ環境をつくる。子育て世帯が安心して子育てできる環境をつくると、このあたりに関しては1つのグループとして、ワーキン

グを形成して、議論すると同時に何らかの行動を発生みたいなのができないかと。

2番目は、先ほどもURの話が出てましたけれども、「多様な住まい」ということについてはちょっと今の居住は、自治体はどうなっているか、というような調査も含めてもう少し専門的な調査が必要なんじゃないかなというので、少し今年は横に置いといたらどうかと。

で、その次は「豊かで多機能」というのは、これは基本的にはここにありますようにコミュニティビジネスを取り込むということを一とつ外して、生活サービスの導入、あるいはパブリックスペースの魅力のあり方、あるいは新たなまちの魅力づくりに取り組む。こんなあたりを基本的に1つのグループとして議論し、行動を発生させたらどうかと。で、最後が生活サービスの機能を導入するという話と、先ほども出てましたように公共施設の活用も含めた、空き施設、空き家等を活用したまちづくりの拠点づくり。このあたりについては、具体的にワーキングを形成して議論していったらいいのではないかと。このような3つのワーキングを1つは相互に意見交換ができる全体会として、大きくはまちづくり会議みたいなやつを構築していったらいいかというような、そんな今日ご提案をいただいている、これについていろいろと意見交換をしたいというふうに思っています。

例えば、「いきいき安全・安心」の中で子育てという議題と、高齢者へのサポートという話と、これ一体的にやるのがうまいのかなと。やはり少し2つのグループに分けて議論した方がうまいのかなと。あるいは、先ほども出ていました公共交通機関も含めた移動ということを支える仕組みみたいなやつは、別途グループとして議論した方がうまいんかとか、いろんなご意見をいただければというふうなことをごさいます。なにか、まずは質問でもいいですし、こんなところが前回の意見交換の時に議論されていますけど、もうちょっとこんな点も加えておかなあかんの違うかという点も含めて、何か意見をいただければと思いますけど、いかがでしょうか。

(井筒委員)

はい、けあばる金剛の井筒と申します。よろしくお願ひいたします。

今、こんなものも付け加えたらというところで、資料5ですね、「いきいき安全・安心」の買い物場をつくるということで、9月から移動販売の方をしていただけるということなんですけれども、これは今までの商品を届けるという方に入るのかわからないんですけども、基本的に私、高齢者を担当させていただいているので、高齢者の方は目で見て買いたいという思いがあるんですけども、現状としてそこが難しい方であれば、お買い物の代行とかですね、そういった部分でもシルバー人材センターさんをお願いするとか、あと自治会さんの300円のサービスで買い物代行は難しいんでしょうかね。まあそのあたりとか、いっぷくシステムさんの方とかの買い物代行とか、といったことが入るといいのかなと思った部分とですね。で、あと今おっしゃってくださった、「いきいき安全・安心」の資料4の方ですね、検討する方法というところで、高齢者と子どもを分けた方がいいんだろうかっていうところの意見なんですけれども、どうしても縦割りで、高齢者は高齢者、子育ては子育てってなってしまう部分はあって、その世代間の交流というところも課題にあがっているかと思うんですね。で、金剛地区の活性化を考えるとときには、そこは一体的に取り組んでいった方がというところがあるので、そこは一緒に検討した方がいいのかなということで、分けて、いろんな関係者が意見を出せる場がある方がいいと思いました。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。これはあれですね、「買い物の場を作る」、「家まで商品を届ける」で、その間くらいに入るんですかね、買い物の代行みたいなやつである、それと、家から出やすくすると。それともうひとつが、「いきいき安心安全」で今、1番から4番まで書いていただけてますけどこの中に5番みたいな話で多世代交流みたいなやつが大きな柱として一本いるんじゃないかということですよ。1番が「高齢者」、2番が「まちの安全」、3番が「子育て」、4番が「子育て」というふうになってますので、ひょっとしたら「まちの安全を守る仕組み」、このあたりのところが全員が地域が主体になってということで、ここに入るのかもしれないし多世代交流は。あるいは一本、多世代交流みたいな柱を打ち立てた方が良いのか、まあそのあたりのご提案ということですね。はい、ありがとうございます。

他はいかがでしょうかね。どうしても縦に切っていくとなかなか世代間交流みたいな話はぽっと出てこなくて、この頃保育園なんかで、金剛の保育園あるかどうかわかりませんが、保育園で毎週木曜日の午後、近隣のご高齢の方のサロンをやっているような保育園というのがけっこうこの頃出てきているんですね、いろんなところで。そういうふうなことで、家にはもう孫のいない高齢者が多いものですから、保育園でそういうサービスをしていただいて、地域貢献なり地域交流すると、というような保育園もこの頃だいぶ出てきてますけどね。

他いかがでしょうかね。何かお気づきの点、いかがでしょうか。

例えば先ほど吉村さんが公共施設のうまい使い方あるいは在り方やという話で言うと、多分このあたりで言うところの一番下の「住民が育てる」「空き施設空き家等を活用したまちづくり活動の拠点」と、このあたりの中での議論になってこようかと思うんですけどね。何かそれに関連してご意見。

(吉村委員)

僕がよく思うのは、意見交換会でもちょっと言ったんですけれども、僕の目の前が葛城中学校なんですけれども。葛城中学校がたまに、長期休みの終わり頃に地域清掃活動をやったりする、それが地域の方全然知らない中でやられてて、ああいうのが一緒にすると。学校がひとつの地域の拠点になるという考え方ですね。そういう点で学校の生徒と一緒にやる場を設けるとか、今、小学校とかの生徒が少ないとか、いろいろ問題あるんですけれども、学校の施設というのは公共施設で、非常に重要なものだと思っていて、1点目には文化的な拠点に、特に小学校の場合はなるべきじゃないかなと。これはかなり昔に文化の拠点というようなことが確か言われたことがありましてね。僕は良いことやなと思ったんですけれども。そういう点で、学校の設備そのものが、教室だけで考えたら非常に使いにくい面あるんですけれども、設備の形態と言いますか、そのあり方も含めてね、小学校は小学校だけじゃなくって、例えば学童もありましたし、今使いにくいとはよく言われているんですが、地域の方がそこで何か会議とか集まったりする場というのを設けられてますんでね、そういう、もうちょっと広い施設として学校、小学校なんか特に活かしていったら良いんじゃないかな。

小学校とかのあの場の、もうひとつ大事なものは、実は運動場というのが非常に大事だというふうに思ってます、これはうちの子ども自身が地域の野球チームに入りましたので、休みの時とか

にかなり使わせていただいたんですね。それは少年野球チームだけじゃなくって、いろんな地域のスポーツ団体みたいなのがそこを使うということにも使えるし、今防災の問題非常に言われてますけれども、防災時においても非常に重要な役割を果たすことになると思いますので。そういうので地域の学校なりいうものは、広く考えていったら良いんじゃないかなというふうに思っています。もっと活かすべきだというふうに思っています。

(増田会長)

そのへんは、金剛なんかでは学校の、今日の資料5の中には、学校の地域拠点としてどんな使い方をされてるのかというのが書かれてないですけど、どんな使われ方をされてるんですかね。例えば、避難場所としてやってる時なんかは、そしたら夜に地震が起こった時に、教室とか校庭に逃げ込む時の鍵の管理を地域の自治会が預かってるのか預かってないのか。預かってないと、校長先生なりが出てこないで逃げ込めないと、あるいは、校庭開放はわりと進んでいるかもしれませんが、ひょっとしたら校庭開放も、その時に学校関係者が必ず出ないといけないような仕組みになってるのか、それとも地域にある一定権限委譲しているのかと。特に教室みたいな仕組みだと、箕面なんかはわりと積極的に開放してて、ある意味ハード的に切り取ってしまって、居住者が使える地域公民館的な機能のところは、地域に鍵渡してると。そのかわり職員室だとか教室だとか図書館にはちゃんとバリアがあって入れないようになってるとか、そんな整理はあるかもしれないですけどね。今現在どんな地域への使われ方をして今後の可能性としてというようなことはいっぱいあると思うんですけどね。

(溝口委員)

この管理する教育委員会の問題もあるんですけどね、高辺台小学校では空き教室を地域の福祉委員会があるいは自治会が鍵を預かって、子育てあるいはサロン、その他カラオケそういうのをやってる。これは最初に吉村委員の方から公共施設等管理等の問題と絡んでくるんですがね、先ほどからずっと説明いただいているんですが、少々虚しい気持ちもするんですよ。やはり行政の方はね、この問題と今進められている公共施設等総合管理計画、これとの整合性をね、もう少し明確に示す必要があるんじゃないかと、これ全てね、非常にお金のかかることでもあるし、行政の方がそれを補助できるのかも含めないと夢物語で終わってしまうと。

高齢者サービスの点で言えば、自治会の方は今、週2回木曜日と土曜日にコーヒーサービスのサロンを開いている。これには地域の人でも拒まないということでやってるサービスなんです。これはもっともっと団地内、あるいは地域でも金剛地区全体にそういう場が広がっていけば良いかなと。団地内にもさらにそれを広げていきたいとは思っているんです。ただ、場所の問題とか、人員配置の問題、あるいはそれにかかる費用の問題、こういうことも考えるとなかなか難しい部分がありますし、先ほど言いましたように行政の方はどういう形でこれを支援できるのか、もう少し、一番最後でも良いですけど推進課の方から明確な考え方を示していただきたいなど。そうでないとなかなかね、「こうしたい」「ああしたい」と言っても、全てそれは、この中には結構箱モノの問題もありますしね、そういうものが絵に描いた餅になってしまうんじゃないかという、先ほど来説明を受けていた時にね、そんな感じがしたんで、最後に是非お願いしたいなど。以上です。

(増田会長)

はい。小学校についてのデータは一度整理いただけますかね。どんな使われ方をしてるんだと。例えばイギリスなんかの小学校では、小学校が地域の文化拠点みたいになってて、小学校を訪ねていくとその地域の歴史とか地史みたいなものがわかるとかそういうふうになってる仕組みがあるんですね。ところが、日本の小学校って行ってもそのまの歴史が分かるかとか、そんなふうになってないと。なかなか図書館使わせてもらえないところも結構たくさんあると。子どもの題材が大事やというようなことから使えないようなところがようさんあると。そのへん先ほどいただいた、地域の文化拠点的な話だとかいう話も、非常にこれからの重要な視点で。

はい、ありがとうございます。それは多分、ここが一番下のワーキングのところに入ってくるんでしょね。まちづくり活動の拠点をつくるような話の中で、もう少しここを膨らましたら。

他いかがでしょうかね。はい、友田委員。

(友田委員)

資料4を見ますとね、ハードの施策とソフトの施策があって、わりとソフトの施策が多かったですけれども、金剛地区とかそういったものを再生していこうとすると、ハードとソフトを組み合わせながらやっていくことが大事で、金剛の中でも中央駅前線ありますよね、あれも昔はただのアスファルトの道路だったんですけれども、やはりあれを整備してから金剛の地区ってわりと美しくなりましたし、駅前だって手を入れていただいてかなり良くなってきたという形で、やはりハードがシンボリックに整備されるということが重要で、そのことを書いてるのが多分、資料4では上から3つ目の枠の、「パブリックスペースの魅力づくり」ということになるんでしょけれども、資料5の8ページが、そこに入ってくるんですけれども、資料5の8ページというのが、ソフト性のことで書かれてるんですよ。やはりここについても、今までよく出てるのは中央公園であったり寺池公園であったり、それとか金剛ピュアですよ、金剛ピュアをどうするかとか、そういったところについてハードをどうやって作っていくんだとか、そこに対して市民をどういうふうに参加させていくんだとか、そういう施策がわりと重要なので、そういう事例であったりそういう取り組みをどうするかというのを入れていただきたいなというのがひとつと、今のは当面できる業務かなと思うんですけれども、中長期的には金剛の駅前どうするかということがかなり大事で、10万都市くらい、例えば池田市であったり箕面市くらいの規模の都市ですけれども、そういったところを見ますと駅前というのはきちりと作られてる。都市機能もそれなりに集められてる。それで池田市なんかで言えば若い子が増えていってるんですね。この増え方というのが、それほど大きな差がある訳ではないんですけれども、駅前を見ますとね、例えば子どもたちがバレエスクールに通うのを子ども達だけ行っていると、駅前とかでね。それとか高齢者が食事を、ちょっとおしゃれをしながら食事をしてるとかね。そういう風景を日々毎日見ます。そのへんがね、金剛の駅前というのはできていないので、やはり子どもたちが安心してそういったいろんな文化的なものに触れ合えるとか、高齢者もそういった時間をちょっと楽しく過ごせるものが身近にあるとか、そういう機能をやっぱり駅前というところで作るというようなことが、中長期的にはどうしたらいいのか、ということも考えられたら、この2点くらいはやっぱり入れていただきたいなと。それはもう書かれてますけれど

も、やはりそのへんの取り組みが必要なのかなというふうに思っています。

あと、公共空間をいかにシンクロ的に作っていくかとかいう時には、デザインの話がどうしてもあるので、このワーキングも地域だけではなく、そのへんのデザインを考えてくれるような方にね、入れていただいて、ここをどういうふうに再生していくのかみたいなものを、検討の人材として入れていただいたらわりとそういったことも検討できるなと思ったりもします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。多分そのへんは、「豊かで多機能」というあたりの中の「パブリックスペースの魅力づくり」このあたりのところ、もうちょっと書き込まなあかんということでしょうかね。その中で次にワークショップでワーキンググループで議論できることと、一部集合住宅の建て替えによって生み出すような機能だとか、駅前の機能だとかいう話の中で少し、市専門家の調査によって、新たな都市機能をどう引っ付けるか、そのあたりでも議論せなあかん課題かもしれませんね。

(溝口委員)

駅前と言って、具体的にどのあたりをさしてるのか。駅前というのは、あそこ狭山市なんですよ。それをどういう形でイメージを描いておられたのかなと、今お聞きして思ったんです。

(増田会長)

なるほど。どうでしょうかね。

(友田委員)

金剛の一番の課題はやっぱりそこにわりとありましてね、やはり富田林市の一番端になりますし、駅は狭山市になりますしね。普通これだけの開発があれば、駅とセットで駅前も普通はやるんですよ。しかしながら、金剛の開発というのは駅前が外れていたもので、駅前ってところの商業系の土地利用を入れるとか、そんなことがあんまりなくて、どうしても今イオンが建ってるようなあのへんに機能を集約するみたいな絵になって、駅前というのがあまり考えられてなかったんですよ。しかしながら、生活圈なんか狭山も金剛も一緒ですのでね、そこについては行政のところちょっと超えるようなことも含めて、狭山市とも含めて検討するということをひとつやっていかないといけないのかなというところ思っています。その時には、機能の再編みたいな話もありますから、駅前をどうするであるとか、駅前の近いところに公園があったり、いろんな空間がありますんでね、その空間の再編をどういうふうに考えるんだとか、そんなことも含めて、やはりひとつは再開発事業みたいになるんですけども、かなりの建ぺいも余ってますし、容積だってまだ全然与えてもないので、本当に中長期、長期の話になるんでしょうけども、それぐらいのことは中長期的にはどうするんだってことを、もう少し狭山市とも連携しながら考えるというのは大きな方向としては議論したらどうかなというふうには思いますけど。

(中井副会長)

私45年になるんですけど、一番昔の時はですね、マンションが建って下に保育所があるところがあると思うんですけど、あそこが実は商業ゾーンになってまして、本来あそこの駅前に商店筋が整備されるというイメージで私ら昔は入ったんです。実際にはそうはならなかったんで、今駅前に商業施設はないという状況で、鉄道の駅というアクセスの拠点であるにも関わらず、人が寄って賑わいを出す部分が整備されていないという状況だと思うので、友田委員も言われているようにどっかあの辺に作るのが良いんだと思いますが、それは再編の中で考えていかないかなのかなと思うんです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。これ、多分前回の意見交換でもそんなことが議論されたと言っているのは、ここに書いてある資料4は比較的現状としての課題をベタベタなことに対しての取り組みみたいなやつはかなりきっちり書いています。少し中長期的な、ビジョン的なところがかなり抜けてるん違うかというような、意見交換会でもそんな議論が出たというふうに小耳に挟んでいるんですけど。そんな視点ですよ。だからどこかで課題解決型というところと、同時に少し将来に向けた中長期的なビジョンみたいなやつを、どんな枠組みで我々議論するかというあたり、ちょっと工夫いただけますかね。このままの資料4ではそのあたりがちょっと抜けてると。ひょっとしたら、この真ん中の地域も参加しながら、もう少し専門的調査を踏まえてからと書かれてるここに含めるというふうに考えるのか、何らかの意味でそのあたりの情報発信力だとか、将来に向けての機能転換だとか、そのあたりについてはちょっとどっかで考慮いただければと思います。

はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうかね。

(吉村委員)

繰り返しになるかもしれませんが、意見交換会の時もやっぱり駅前大事やなとか、顔になる部分やということで、となると場所的にはURのピュア金剛、あそこになるんです。その時に話がパタッと止まるのは、URの方でどう考えてるかが出てこないと話できへんのやと、進まないのやということで、いつもそこで止まってしまうということがありますので、その点では協議会ということでいろいろ入っていただいている訳だから、そういう点でも僕が最初に言った一緒に考えていくという方向でいろいろ意見とか方向性を考えていってもらえたらなという、必ずそういう話になってくるということなんです。だからそういう点で、最終誰が調整していくかと言ったら、僕は市じゃないかなといつも思ったりするので、それで市の責任、責任と言いますか大事ですよということで、僕はよく強調するんですよ。あと、公共施設もそうですけどね。そういうふうな協議会ということですから、いろいろな立場で出していただきたいといつも思う訳ですから。

(増田委員)

はい、いかがでしょうかね。私とかはね、市がこうするという約束を取り付けないとダメやという話ではなくて、指針としてここに一緒になって書くわけですから、我々が書ききったら良い訳ですよ、どういう方向性かということ。それを市として後、どう取り組んでくれるかということを考えてもらったら良い訳で、我々としてどういう書き方があるべきやとかあってほしいかというこ

とをここできっちり書き込むということが一番、まずできることやと思いますね。約束は、ひょっとしたら絵空事に終わるかもしれないから書き込むのは力出ませんねという話じゃなしに、きっちりと書き込みましょうみたいな議論ができれば良いなあと思ってるんですけどね。

はい、どうぞ山田委員。

(山田委員)

私この前のお話には参加できなかったんですけど、今この資料4を見るとですね、現在の第3住宅ですかね、建て替えが有志の間で検討中ということなんですけれども、先ほど吉村委員が仰ったように、ぱっと見てピュア金剛だけが本当にゴーストタウンというか空きの状態がずっと続いてますよね。そういうところでURさんがどういうふうに考えているかというのが、多分地域の商店街さんも多分URさんにはいろいろ問いかけしてるとは思うんですけど、多分返答がないとかそのまんまという状態が多分続いているみたいなんです。URが動かんかったら、第3住宅の建て替え、これを民間主導において、10棟くらいですかね第3住宅というのは、その辺を一団の総合設計制度を利用してですね、建て替え、単なる建て替えではなくて、商業施設を低層階に入れて、中層部にサ高住とかそういう老健施設を入れて、高層部に住居を入れるとか。そういうふうな考えもありなのかなと。ただ、それをするとなるとあそこは住居地域なので行政さんの、書いてあるんですけど、用途地域の変更ですよ、というのが必要になってくるのかなと。行政側としたらずっと金剛の駅周辺はずっと住居地域でおいてるんですけど、そのへん将来的に用途地域の変更とか、そのへんとか考えておられるのかなとは思うんですが。

(増田会長)

これ何回も同じこと言うんですけどね、我々が考えるんであってね。市がどう考えているんかというよりも我々があそこをやっぱり生活をサポートする都市機能の集積を図る方向性があるん違うかと思うんやったらそう書き込んだら良いんですよ、この指針の中に。それを今度は指針を受けて市が行政手法としてそれをどうするかとか、例えばURとしてそれをそういう住民のニーズをどう汲み上げるのかとか、あるいはここの分譲住宅に住まれている方々が建て替えという時に一体どういうふうなことが考えられるのかということをやった方が良いんで。市はどう考えてますかって、極端なこと言うたら、こんなこと言ったら市に怒られるかもしれませんが、何も考えてませんと。言うとな怒られますけど、極端なこと言ったらそれくらいのレベルで良いと。むしろ我々がどうしたいかということをやったら良いと。

(溝口委員)

会長仰る通りなんですけど、だけどね、これはやはり書き込むだけで良いんだというふうではなくてね、具体化していくための我々の提言として書き込んでいく。そのためには、今いろいろ意見出たものがただ単に協議会での意見としての書き込みで、これ後行政がどう判断するかと、行政に任せてしまうということになれば、どうせやるのは行政なんです。だけれど、行政がどこまでやれるかということ、この協議会の中でどれだけ強く発信できるかということが大事だなと思うんです。

ついでに二点ほどね、書き込みという形で言いたいんですが。金剛地区の活性化と、いきいき暮らせるようなまちづくりという意味でいけば、ひとつは寺ヶ池、この寺ヶ池を以前は魚釣りもできた状況にあったのにね、今狭山市と富田林と管理が分かれているようなんですが、先ほどの駅前の商業施設も含めて狭山市と富田林の行政の話し合いというか、そういうものの中で寺ヶ池を本当の池の公園というような、中長期の見方でこれを大いに利用していくと、こういうものをひとつ将来像として考えていったらどうかと。併せて前回も言いましたけれど、寺ヶ池周辺の桜はもう50年近く経つんですね。それも、市の方も植え替えをしていくという方向を持っているようなんですが、それが具体的に活性化と併せて是非それをやっていけば、さらにこの金剛地区が人が集まる、皆が寄れる地域になっていくんじゃないか、こういうふうに思ってるんです。

(増田会長)

そのあたり、今さっきのやつにさらに加えてっていうことになると思いますけど、「パブリックスペースの魅力づくり」あたりの中でもう少し具体的な小学校だとか、あるいはピュア金剛だとか駅前だとか、あるいは今出てるこれ前回の意見交換のメモの中にも寺池公園のこと出てますけど、そのあたりについてもどういう使いこなし方ができるのかとか、どういうふうに皆が参加してどう使いこなせるのかと、そのためには行政的にどんな手法を取らないかんのかとか、そんな議論もしていったら良いんだろうと思います。

ありがとうございます。他、いかがでしょうかね。はい、岡本委員どうぞ。

(岡本委員)

どこの枠の中に入るのかがちょっとよく分からないんですけど、「いきいき安全安心」の子育て世帯の安心してなのか、若者がやってくるなのか、それとも「住民が育てる」になるのかがわからないんですが。前回発言させていただいたように、乗降する数とかも、金剛駅降りてっていった時に、やっぱり待機児童の問題というのは、金剛地区はものすごく抱えていて、富田林はずっと待機児童ゼロと言っていましたが、ついに今年初めて待機児童が1歳児で出ましたと、しかもそれは、金剛地区に多いということと、その次に喜志地区が多いんですけど、ということはやっぱり沿線なんですよね。ということは、もしかしたら堺市では絶対に保育所入れないとあきらめた人たちが、ひょっとしたら22分の利便なところの金剛に引っ越して来るかもしれないよっていう期待を込めて、やっぱりそういうことを若者を呼び込むというところをもう少しどこかに盛り込むことはできないかというのが思いです。それは、例えば「空き施設を利用した」のところに入るのか、「子育て安心安全」になるのかは、ちょっとよくわかりませんけれども。そこで思いを語れば良いと増田先生仰ってくださったので、そういう時に、空いているなら貸してくださいねURさんとか、空いているなら民家を提供してくださいねとか、ということはあってもいいのかなと。そこを協力しながらやっていくとか。駅前の開発いしいと言っているけど、南海さんが駅ビルめっちゃすごいのを建ててくてもええやんとか、勝手に夢物語を言ってみましたみたいな。それを協力しながらやっていくっていう方法もあるじゃないのかしらとか、今思いました。勝手なことを言っても良いと言っていたので。

(増田会長)

非常に大事なんですよ、そういうところで。本当にできるのかどうかというのは、これから考えていったらいいんで。目標は皆が共有できたら、できるかどうかをどうやったらできるんやということを考えていったら良いんやろうと思いますね。

先ほど誰か手を挙げていただきましたよね。

(友田委員)

再生指針は今から作りましょうという話で、やはりこれだけの勉強会を起こしてもらって、市の方も取り組んで作ってくれてる状況で、そこに書かれたことっていうのは重いと思ってるんだと思いますので、ですから、こういう形で作ったものをただ聞き逃すとかそんなことじゃなしに、市はきっちり受け止めてくれる思う。ただ、書いたことを市にやっってくださいと言うんではなしに、我々中心にやっていく。地域でやるべきこと、それで我々ができないところっていうのは市とも相談しながらやるっていうスタンスで。今までのこの資料を見てても、ふらっとスペースさんであったり金剛ネットさんであったり、かなりのことをしていただいていますよね。そういった方々皆さんおられる中で、やれることはどんどんやっていくし、やれないことについては市とも共有して、どうするんですかっていう話をするんであって。ですから我々やりたいことをきっちりここに書き込んでいく、そしてやり方は我々でできることと、ここについては市とかURの問題にしないといけないうような、そんなことも含めて議論をしながら再生指針を作れば良いかなというふうに思っています。

(増田会長)

そうですね。再生指針を作ることがこの会議の目的ではなくて、最終的にはここに書いている資料4の「まちづくり会議」を設立して、これからずっと金剛皆で考え作り続ける、というのは、作り直し続けるみたいなそんな仕組みがね、実現していったら一番良いやろうと。再生指針作ったから、もうこれで解散ですよという訳ではないんだろうと思ってるんですけどね。

(中井副会長)

今、言いたいことは友田委員が言われたんですけど、一点だけ付け加えると、今委員長が言われたように、これ作ってお蔵入りというんではなしに、これをいかに実現していくかっていうのを今回で言えばワーキングの会が作られる訳ですから、フォローしていけると。普通、計画を作ってフォローしないんで、実現しない訳ですから、これをフォローしてスクラップアンドビルドで作り直ししていくということをしていけば、100%実現するとは思いませんけども、少なくとも何ぼかは実現していくという可能性が非常に高い指針ではないかなというふうに私は思っています。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

(小野委員)

私は実は地域福祉で、富田林市の「地域福祉計画」なんかにも関わっているんですけど、今回の金剛というところを切り口にしたまちづくりの中で、今回のやつを見てみるとそれぞれこういうことやるんだっていうのは非常によくわかるんですけど、最後の姿というか、それで住民がどんなふうに暮らしてるのみたいなところをどういうふうに共有化できるかっていうのがすごく重要だと思っていて、エンドユーザーというんですかね、何か機会を作って最後どうなってるのみたいな、その姿をどっかである程度皆さんで共有できるというのがおそらく到着点で、そのためにどんなハードとか、どんなソフトが必要なんだっていうことがだんだん考えられていけば良いなということだと思っっているんです。それで、もうちょっと細かく言うと、先ほど教育の話とかが出てきたんですけど、例えば教育の話と医療の話と就労の話と、そういうものがこの金剛の中でもうちょっと繋がっていくようなイメージ、それぞれはそれぞれで当然あると思うんですけど、この地域をベースとしてそういうものが繋がっているのが生活なんで、どういうふうにそれを繋げていけるのとか、何かぶつぶつって全ての制度が切れちゃうんじゃないかって、この地域の中でそういう包括的になっていく意味になるのかも知れませんが、そういう仕組みをここせっかくまちづくり会議ってものを作るっていうのは、おそらくそんなことを考えていくんであろうなというふうに思っていると。その中にある、一回目のこの会議の時にかなり出てきたような、金剛っていう所の持つる地域に対するプライドをどういうふうに皆で作っていくかっていう、そのあたりがどこでどういうふうに形成していくのかなっていうね、非常に興味深くて、今のところはちょっと気になるのがその、ちょっと縦割り感がまだあるかなあっていうところがあって、その包括的な横をどう作るっていう話、一番今日の最初のところにちょっと出てたやつですね、ああいうイメージを作りながら最後の暮らしている姿っていうのはじゃあどんなものなんだっていうことが少し見えていくと良いなっていうのは、個人的な意見としてあります。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

多分ね、ちょっと事務局にお聞きしたいんですけど、この再生指針のイメージの共有ということで、再生指針のイメージはどちらかと言うと資料4もそうでしょうけど、むしろ参考資料の1がかなり近くて、特に参考資料の1の4番、「金剛地区再生の実現に向けて」という話の中の、リーディングプロジェクトだとか推進体制だとか、このへんの話が一切今日の資料の4には出てこないですよ。再生指針全体としてはこのへんの4も含まれるというふうに考えといて良いんですよ。事務局いかがでしょうかね。ちょっと確認しときたいんやけど。

(事務局：坂口)

含めるものとして考えております。

(増田会長)

そうですね。だからそのあたりが今日、どうやって前に進めて、皆で目標像が共有できたとしても、今度それを具体的にどう進めていくんやとか、あるいはどれからアクションを起こしていくんやとかというような話が、どれからアクション起こしていくんですかっていうのがリーディング

プロジェクトやし、それをどんな仕組みでやっていくんですかっていう横串の話がこの推進体制やと思いますので、この話はどっかで議論をきっちりしとかなあかん。ひょっとしたら次回になるのか次々回になるのかわかりませんが、そのへんの話は是非とも一回とって議論をしたいなど。先ほどもありましたように、自分らができることが一体何で、もうちょっと集団を作らないとできないことは何で、さらに公共の税金をあてにしないとできないことは何でとか、役割分担というか、各々できることみたいなやつをどう洗い出していくんかとか、そこまで具体的なアクションプランではないのでそこまで踏み込めるかどうかかわかりませんが、大きな推進の仕組みみたいなやつはどっかで議論しときたいですね。

ありがとうございます。他、いかがでしょうかね。

(東委員)

細かい話になるんですけども、資料4の「いきいき安全安心」ですね、この枠組みの中ですね、1から4の中でも「高齢者の見守り活動」で「みんなが見守るしくみ」、2番で「子どもたちの登下校の見守り」やら、あと「要援護者支援」、その文言が出てくるんですけども、こういう仕組みづくりの前にもっと大事なところと言うんでしょうか、担い手がどのように確保するかというのがすごい大事なところと違うかなと、例えばこういう見守りのシステムですね、組織化をしたとしても、担い手がいないとどうすることもできないと。ここで3番で「リタイヤ層の参加」、また「大学と連携」という文言が出てるんですけど、ここだけのカテゴリに入れるのではなくて、この1から4全ての中でいろんな人が担い手として活動できるように、そういう枠組みで考えていった方が良くないと違うかな、そういう感じがしました。それだけです。

(増田会長)

これ多分、資料5の作り方がそんな作り方になっていて、必ず一番目に主体って出てくると。これが多分担い手ですね。だからどっかで上手いまとめ方、1番から53番までのまとめ方をしていく時にどこが中心の担い手になるんかみたいなやつが、どこまで書き込めるのかわかりませんが、今仰っていただいたような、こういうしつらえの書き方にすると誰が一体担うんですかっていうのが非常によくわかってくると。そういうふうになると上手いかなと思いますけどね。どこまでできるかはわかりませんが。

ありがとうございます。もうお一方、寺田さん。

(寺田委員)

前回2時間ほど緊張して見守っている間に終わってしまって全く発言できなかったんですが、前回僕が発言しなかったというのも影響しているかもしれませんが、高齢者に対する取り組みっていうのがあんまりここでは出てこないのかなというのがあって、意見交換会の票数とかも見てると「高齢者の見守り活動」や「買い物サービスの充実」、あとは「住民が育てる」のところで「高齢者など、多世代の交流の場づくり」というところで、結構関心も高いですし、今ちょっと小野先生からもお話があったんですけども、地域福祉の関係で僕もいろいろ会議、校区で出させてもらって、やっぱり高齢者が集まる場所だったりっていうのが課題としてあがってたりするので、高齢

者の居場所づくりとか、見守り活動にもつながるんですけども、教室だったりサロンだったりっていう形で外に出てくるきっかけづくりっていうのをもうちょっと入れていただければと思います。以上です。

(増田会長)

ありがとうございます。子育てのお母さん方の居場所づくりとか子どもの居場所づくりというのはかなり書かれてるんですけど、高齢者の方の居場所づくりみたいな話が明確に出ていないかもしれないですね、関連は書かれているんだろうと思うんですけど。

はい、ありがとうございます。これは是非とも評価していくと。

他、いかがでしょうかね。はい、溝口委員。

(溝口委員)

何度もすみません。意見交換会でもこの場でも、いつもピュア金剛のことが出るんですね。ピュア金剛の成り立ちから、どうして閉鎖になって、どういう経緯になっているかっていうのは、あまりご存じないままピュア金剛ピュア金剛と仰るんですね。3年前に募集停止したのは要するに耐震の問題なんです。そのあたりの経緯を、せっかく藤本さん来ておられるんで、そのあたりのことを皆さんにわかるように説明していただければなど、振りますけれどよろしいか。

(増田会長)

はい、どうですか現状の経過とか現状みたいなやつを、皆さん理解できるように。

(藤本委員)

そうですね。URから参加させていただいておりますけれども、溝口委員が仰った過去の経緯っていうのは、私の担当しているセクションじゃないので、今、今日ここでご納得いくようなご説明ができませんけど、次回までにそのあたりは整理してご報告はさせていただきたいと思います。溝口委員が仰ったように、耐震診断をやってですね、結果があまり芳しくなかったということで、今現状ああいう形になってると。どうするのかというところもですね、大変時間がかかっている、こういう意味でも地元の方にご迷惑をおかけしているのかなと思いますが、まだ社内でいろいろと検討しております。言ってしまうと、取り壊すのか補強工事をやるのか、取り壊すのであれば次どういう形で活用するのか、言ってしまうとこういうことになるんですけども、ここの判断の中に当然地元の方々としてこういう機能を残して欲しいという思いが、たくさんお持ちだということは、前から承知もしておりますし、今日改めて感じております。今日の内容の結果はURに持ち帰って、その担当の部署にも伝えたいと思いますが、一方でやはり経営体ですので経営採算上どうなのかということがピュア金剛のこれからの取り扱いに、社内的に多分そこも大きく左右するのかなというふうに、私自身はそういうふうに想像しております。そういう状況ですので、これまでの経緯に関しましては申し訳ありませんが次回少しご紹介させていただきます。

(増田会長)

まあ、いろいろな形態があつて、講演会させてもらった時に、パリの郊外にあるニュータウンの近隣センターどういう再生しているかという、もう完全に耐震補強できないのでとっぱらって、何やってるかと言ったら、資本投下せずに覆い屋を作って従来の街角のマルシェですね、朝市みたいな、大阪で言うと屋台村みたいな、ああいう形で再生しているという事例も世界にはあります。新たなハード整備せずに、むしろ大きな完全なパオみたいなテント張り構造を作って、その中でマルシェをやる。本来まちってそんなんで消費行動をサポートしてみたいやつがあつて、そんなやり方もあります。世界にはいろんなやり方がありますから、と思いますけどね。

はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。はい、市川委員。

(市川委員)

前回、お休みさせていただいてたんですが、銀座商店街から来ました。2つお話させてもらいたいことがあつて、先ほど言われたピュア金剛の件は、僕が会長になつてからいろいろとさせていただいてるんですけども、まともな回答が一回もいただけないというのが実際の現状であつて、今、整骨院やってるんですけども患者さんから「どうなるんや」とか、「何ができるんや」とかいうお話はたくさんあります。次回までに検討、お話をいただけるというのをすごく期待しています。それと、もう一件空いている店舗があるんですけども、そこに関してはどうなつてのかわつていうのは聞きたいかなと、商業の方からも思っていることがありますので、そこをお聞きしたいなと思つています。

それと、地域の新たな魅力づくりに取り組むつていうところで、ちょうどここに書いていただいていたのが僕も驚きだったんですけども、金剛バルつていうところのやつを2年前からあるんですけども、2年前に金剛賑わい創出委員会つていうのを立ち上げまして、今年で2回の金剛バル開催して、今年の11月26日に金剛バルの3回目を開催することになりました。今年から僕が賑わい創出委員会の会長をお受けさせてもらつて、せっかくなのでこの場でアピールさせてもらいたいなと思つています。そこでは富田林の、メインでは商業されてる、お店をされてる方を飲食ブースであつたりとかそういうところに来ていただいて、また市の方からも協力いただきながらイルミネーションの方やつたりとかやつてもらつています。今年は新たな取り組みとしては子育て、子どもつていうところと何か地域と一緒にできないかなというところで、シンボルになつてるペットボトルツリーに、保育園・幼稚園を回らせていただいて装飾のお願いをしようかなというふうに思つています。せっかくこの金剛地域の方がたくさん今来ていただけてますので、まずは26日の日に足を運んでいただきたいなというのと、協力、いろんな形の協力つていうのがあるとは思つてんですけども、何か協力していただけたら、僕ら自身助かるなと思つています。実際、この場にも実行委員として僕、横にいらっしゃる中西さん、寺田さん、岡本さんも実行委員として、役員として入つていただけてるメンバーがいますので、また何かの形で協力をお願いすることもあると思つていますので皆さんよろしくお願ひいたします。

(中西委員)

今の補足なんですけど、金剛地区で盆踊りに次ぐイベント、冬のイベントとしても定着させたい。現実におとしが2,000人、1日ですね、3時間。去年が2,700くらい、動員してるので。

一過性のものではあるんですけども、毎年やることによって。市もイルミネーションを今年は26日から1月の22日くらいまで、駅前、富田林の範囲内ではあるんですけども、金剛の私どものショッピングモールの前までイルミネーションをしてけると。そういういろいろなシンボリックなことをやっていきたいと思っています。

(増田会長)

ニュータウンの近隣住区論を立案したペリーが、住宅地面積のうちの10%を公園にしろと、真ん中に公民館と公園と小学校を置きなさいと言ってるんです。その時の公園の意味はお祭り広場やと言ってるんですね。お祭りを通じてコミュニティを再生していくとかコミュニティを形成していくというふうなことで、そういうイベントとかお祭りみたいなやつというのはきっかけづくりとしては非常に重要ということは当初から言われているんですね。なかなかそれが今までいろんなニュータウンで、旧村にはお祭りあるけどニュータウンにはお祭りないというのが結構ネックになって、今だいぶそういうところできあがってきつつある、あるいは継続されてきているというね。来週、この週末、明日、明後日やと思うんですけど、泉北ニュータウンの泉ヶ丘のところにある大蓮公園、そこで市民がいろんな持ち寄りのイベントをしましょうという、市民からこんなプログラム提供をしたいというのを公募して、10くらいのプログラムが運用、走り出すと。そういう自分らの公園を使いこなそうみたいなことを通じて展開していきましょうというので、明日ありますね。これ、去年からやって今年で2回目のイベントですけど、ただもうあと1回あって。たまたまそれを市から頼まれて仕掛けているのが、よくNHKなんかに出てる山崎亮というコミュニティデザイナー、あれ私の教え子なんですけど、それが仕掛けてやっています。余談ですけど、そんな情報もあります。興味あれば、明日・明後日やと思いますので。うちの学生にもいろんな調査をさそうかなと思ってるんですけど。

よろしいでしょうかね。大体時間が来て、今日5時に出なあかんと言っていましたので。大体よろしいでしょうか。大体皆さん方からほぼ発言いただいたかなと思いますけど、よろしいでしょうか。そしたら残された時間ですけど、次回に向けてということでもう一度資料3、あとまとめるのに対してどんな協議会と、どんな意見交換会あるかっていうことも含めて、少しご説明をいただいて意見をいただければと。

(事務局：坂口)

まちづくり推進課の坂口でございます。本日は、活発なご議論ありがとうございました。

早速ですが、次第の2(3)としまして、まず次回協議会の開催についてご説明させていただきます。

資料3の方にもございますように、次回協議会の方はですね、第3回、12月～1月頃の開催を予定しております。

会場につきましては、今回と同じくこちら金剛連絡所2階ホールでの開催を検討しております。詳細な日時の方については、また後ほど連絡のほうさせていただきますので、よろしくお願いたします。

その間ですね、次回開催まで、今回ちょっと少し時間が空いてしましますが、その間ですね、住

民等が参加する「地区活性化に向けた意見交換会」というものを重点的に開催させていただきまして、取り組みほう今日いろいろな議論いただいたんですけども、その取り組みの進め方について、取り組みの題材はあがってきたんですけど、誰がどうするんだというところで、議論が止まっているところがありますので、これから自分たちでできること、行政がお手伝いすること、若しくは事業者さんの方でサポートいただくこと、そういったこと、推進体制をどうしていくのかといったことを中心に、当初の予定よりも回数一回増やしまして、2回間に挟んでいきたいと思っています。

それとですね、次回10月16日に午後1時から、こちらの場所で開催させていただくんですけども、できましたら協議会の委員の皆さんも参加できる方はのぞいていただければなと思っています。特にNPOさんとか、けあばる金剛さん、商業事業者の皆さんには、できればレギュラーとして入っていただければいいなと、自分たちで活動するといったノウハウもいろいろと持っておられ、教えていただければと思っています。これ後ほどまた声掛けさせていただきますので、よろしくをお願いします。

他の委員さんにつきましても、現場見ていただくだけでも結構ですので是非とも参加いただければと思っています。

それと、10月29日の土曜日なんですけれども、大阪大谷大学さんの協力を得まして「学生によるまち歩きワークショップ」というものを開催させていただく予定です。こちら資料のほう一枚だけ別枠で置いておいた資料があるかと思っておりますけれども、10月29日の土曜日の午前9時～、実際に学生の皆さんに金剛地区のまちを歩いていただいて、ポイントポイントでいろんな施設とかまちの様子を見ていただいて、今住んでいる人からは分からないような視点、若者視点といったところから、まちの魅力や課題、活性化のアイデア等を頂戴したいと考えています。

こちらの方にも意見交換会の皆さんにも参加協力をお願いしているのですが、協議会委員の皆さんにも、このようにすればといった意見やアイデア等があればどんどんいただきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。

次回協議会なんですけれども、第3回、先ほど申しました12月から1月の間で日を設定させていただきますけれども、大きな形としてこの参考資料1にあります全体的な形を基にですね、今日いただいたご意見も踏まえましてもう少し資料を整理するということと、リーディングプロジェクトといわれる、今こういった取り組みを優先的、短期的にすすめるべきではないかといった部分については、その推進体制というものも含めて、意見交換会の中である程度まとめたものを指針素案の素案的なものとして示していきたいと思っています。

その中でまた、抜け漏れ等出てくるかと思っておりますので、次回はそちらの資料を基にご議論いただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

事務局からは、以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

これ、ひょっとしたら今日のご議論が出ている中で言うと、協議会あと3回、4回ですけども、ひょっとしたらもう一回増やして、今ある現状の課題を短期的に解決しないといけないということはこのワーキンググループの中でだいぶ出てきている。けれども、それだけではカバーできない中

長期的な魅力づくりだとか、駅前の再開発的なものまで含めたような中長期的な課題に対応する。それはどこまで現実性を持たせるかということは、なかなか難しいかもしれませんが、皆でどんな夢というか将来像をどう共有できるのかというようなあたりは、ワーキンググループの中で議論するよりも、もう一回ここで議論するような場を作った方がいいかもしれない。それはちょっと検討してもらえますか。

今日だいたい具体的な場所として、例えば寺ヶ池みたいなものをどう使いこなしていくんだとか、あるいはピュア金剛みたいな、事業体としての経営上の成立性みたいなものとは別に理想像として、住民としてはどのような夢を描けるのか、あるいは教育施設みたいなものをどういうふうに使って言ったらいまいのかとか、そのようなあたり、どっかで意見交換しておいた方がいいかもしれないです。

そのあたりは、多分このワーキングの中でも 外だして、資料4のワーキンググループをつくり取り組むということ以外の所になっていますよね。このあたり資料がないとなかなか議論しにくいというところもあるでしょうけれども、ひょっとしたら意見交換しておいた方がいいかもしれませんので、ちょっとそのへん、事務局、検討してもらえますか。

それと同時に、各ワーキングを総括するまちづくり会議みたいなものを設立するというのは、これは多分ドライビングフォースとしての組織みたいな話で、それをパブコメ終わった後の推進体制というところで議論をしてしまうのか、その前に一度議論しておくのか、そのあたりも一度ひょっとしたら今日9月で意見交換2回あって、さらに協議会2回するというのは、スケジュール的にしんどいかもしれませんが、ちょっと一回検討してもらえますか。ダメならこれでいったらいいと思うんですけど。だいたい最初の時間の半分以上ぐらいはその辺のご議論だったと思うので。

できるかどうかにかかわらず、皆で少し夢を共有していくような所とかあるべき論を共有しておくようなところ、その辺の議論をちょっと考えてもらえませんか。

そうでないとひょっとしたら足らないかもしれない。どうですかね、ちょっとそんな方向で考えてみてください。

よろしいでしょうか、ひょっとしたらもう一回忙しいときに時間をとってもらわないといけないかもしれませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局：坂口)

最後一点だけ。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(事務局：坂口)

この後、岡本委員「ふらっとスペース金剛」の岡本委員の協力を得まして、地区内で子育て支援の活動をされている拠点、施設の見学会をさせていただきたいと考えています。空き家を活用して実際に取り組まれていること。今日はもう場所だけになるかもしれませんが、駅まで歩く途中のすぐそばにありますので、ちょっとお時間ある方、10分でも15分でものぞいてい

ただければと思っておりますので、終わられましたら、一階ロビーの方でご集合いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(増田会長)

ありがとうございました。そしたら、今日私が預かっておりました議題はだいたい終わったかと思えます。非常に前向きな議論ができたということだと思いますし、残されている課題もまだまだ大きいということも痛感していますけれども、やはり皆が課題を共有して目標を共有しないと、一步も前に進みませんので、その辺うまく皆で共有できる目標像、そのあたりを構築できたらと思えますので、引き続いてよろしくお願ひしたいと思えます。

それでは、坂口さん返したらいいのかな、もう終わったのかな今ので。

(事務局：仲野)

今日は貴重なご意見、どうもありがとうございました。先ほどの協議会の回数ですね、その辺も含めまして、また今後中で検討して、また皆さんのいろんなご意見をいただける場を設けたいと思っておりますので、今後どうぞよろしくお願ひします。

本日はどうもありがとうございました。